

小児がん拠点病院 現況報告書

令和6年9月1日時点について記載

病院名	国立成育医療研究センター											
よみがな	こくりつせいいくいりょうけんきゅうせんたー											
郵便番号	〒	157-8535										
住所	東京都	世田谷区大蔵2-10-1										
よみがな		せたがやくおおくら2-10-1										
電話(代表)	03-3416-0181											
FAX(代表)	03-3416-2222											
e-mail(代表)												
HPアドレス	https://www.ncchd.go.jp/											
診療科	開設診療科数	28										
診療科名(具体的に記載)	内科、精神科、神経科、呼吸器科、消化器科、循環器科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、心療内科、小児外科、矯正歯科、小児歯科、病理診断科、麻酔科											
外来診療受付時間	曜日	月～金	時間	8	時	30	分	～	17	時	15	分
	曜日		時間		時		分	～		時		分
	曜日		時間		時		分	～		時		分
	曜日		時間		時		分	～		時		分
	曜日		時間		時		分	～		時		分
	曜日		時間		時		分	～		時		分
休診日	土日、祝祭日、年末年始 ※小児救急外来は、24時間年中無休											
初診時の予約	すべての診療科で必要			(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								
初診時の紹介状の要否	すべての診療科で必要			(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								
病床数	総病床数	490	床									

診療実績（令和5年1月1日～12月31日）

施設全体の入院患者延べ数（18歳以下）※1	10,228	人
施設全体の入院患者実数（18歳以下）※1	7,548	人
小児がん入院患者延べ数 ※2	784	人
小児がん入院患者実数 ※2	257	人
小児がん入院患者在院延べ日数 ※3	16,603	日
外来小児がん患者数 ※4	10,929	人
緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者数 ※5	53	人
セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者数 ※6	94	人
他施設から紹介され受け入れた小児がん患者数 ※7	104	人
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数 ※8	69	機関
小児がん患者の他施設への紹介患者数 ※9	132	人
小児がん患者を紹介した医療機関数 ※8	72	機関

※1 当該医療機関で入院加療を行う入院時18歳以下の患者の延べ数と実数をそれぞれ計上する。令和5年1月1日以降に入院した患者を数える。
入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も1人と計上する。
入院患者延べ数については、当該年に同一患者が2回入院した場合は2人とする。（入院日数によらず、1回の入院あたり1人を計上する。）

※2 当該医療機関で入院加療を行う入院時18歳以下の患者のうち、小児がん患者（「診断時18歳以下のがん患者」と定義する）の延べ数と実数をそれぞれ計上する。令和5年1月1日以降にがんの診療を目的として入院した患者を数える。
骨折での入院のような他疾患の治療目的での入院は除外するが、フォローアップ検査等での入院は含む。
入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も1人と計上する。
入院患者延べ数については、当該年に同一患者が2回入院した場合は2人とする。（入院日数によらず、1回の入院あたり1人を計上する。）

※3 当該医療機関で入院加療を行う入院時18歳以下の患者のうち、小児がん患者（「診断時18歳以下のがん患者」と定義する）の在院延べ日数を計上する。
前年から入院している症例は、1月1日を起算日とする。翌年まで入院している場合は12月31日を退院日としてカウントする。
当該期間内のがんの診療目的での入院を数える。（他疾患の治療目的(例:骨折にて入院)での入院は除外、フォローアップ検査等は含む）
（入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も1日と計上する。）
（入院時点で診断がなされていない場合は、がんの診断日を入院初日とする。）

※4 診断時18歳以下を対象とする。初診料もしくは再診料を算定した小児がん患者の延べ数を記入する。
同一患者が2つ以上の診療科を受診した場合は、それぞれの患者として計上する。

※5 診断時18歳以下を対象とし、総数(実数)を計上する。終末期の患者だけではなく、緩和ケアチームが検討した結果、診察・薬剤・リハビリなど診療行為の対象となった患者を含むが、カンファレンスのみを行い、実際の診療行為が行われていない患者は含まない。

※6 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、当該年に2回セカンドオピニオンを行った患者は、2人と計上する。

※7 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、フォローアップ目的の紹介を含む。

※8 重複のない実数を計上する。

※9 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、紹介時には18歳を超えていても構わないが、がんに関連しない疾患での紹介(齲歯に対する歯科診療など)は含めない。転院目的での紹介は含むが、同時期に複数病院へ同一内容で紹介した場合は1人と計上する(同時期に異なる内容で紹介または異なる時期に同一内容で紹介の場合は別で計上する)。

小児がんに関する専門外来の名称

小児がんセンター：
血液腫瘍科、固形腫瘍科、脳神経腫瘍科、移植・細胞治療科、血液内科、がん緩和ケア科、長期フォローアップ科、小児がんゲノム診療科、腫瘍外科

職員数

総数(事務職員を含む)

1,930 人	
人数	うち常勤(※)
387	330
6	5
47	42
0	0
797	777
1	0
11	11
5	5
7	3
4	3
0	0
19	19
30	24
1	0
11	11
7	6
0	0
10	9
3	3
11	6
1	1
14	13
561	206

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

医師
歯科医師
薬剤師
保健師
看護師
准看護師
理学療法士
作業療法士
視能訓練士
言語聴覚士
義肢装具士
診療放射線技師
臨床検査技師
衛生検査技師
臨床工学技士
管理栄養士
栄養士
社会福祉士
精神保健福祉士
公認心理師
介護福祉士
保育士
その他の職種

一般社団法人日本小児血液・がん学会 小児血液・がん専門医
一般社団法人日本小児血液・がん学会 小児がん認定外科医
一般社団法人日本小児外科学会 小児外科専門医
公益社団法人日本小児科学会 小児科専門医
一般社団法人日本小児神経学会 小児神経専門医
一般社団法人日本脳神経外科学会 脳神経外科専門
一般社団法人日本病理学会 病理専門医
公益社団法人日本臨床細胞学会 細胞診専門医
一般社団法人日本血液学会 血液専門医
一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医
公益社団法人日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
一般社団法人がん治療認定医機構 がん治療認定医
公益社団法人日本放射線腫瘍学会・公益社団法人日本医学放射線学会 共同 放射線治療専門医
公益社団法人日本医学放射線学会 放射線診断専門医
特定非営利活動法人日本緩和医療学会 緩和医療専門医
特定非営利活動法人日本緩和医療学会 緩和医療認定医
一般社団法人日本内分泌学会 内分泌代謝科(小児科)専門医
特定非営利活動法人日本小児循環器学会 小児循環器専門医
一般社団法人日本小児麻酔学会 認定医
公益社団法人日本看護協会 がん看護専門看護師
公益社団法人日本看護協会 小児看護専門看護師
公益社団法人日本看護協会 地域看護専門看護師
公益社団法人日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師 または がん薬物療法認定看護師
公益社団法人日本看護協会 緩和ケア認定看護師 または がん性疼痛看護認定看護師
公益社団法人日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師
公益社団法人日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師
公益社団法人日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師
特定非営利活動法人日本小児がん看護学会 小児がん看護師
一般社団法人日本輸血・細胞治療学会 臨床輸血看護師
一般社団法人日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
一般社団法人日本医療薬学会 がん専門薬剤師
公益社団法人日本臨床細胞学会 細胞検査士
一般財団法人 医学物理士認定機構 医学物理士
一般社団法人日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師
公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士

人数	うち常勤(※)
10	9
7	5
10	7
139	118
4	4
3	3
4	3
3	2
13	12
9	8
0	0
19	13
2	2
8	6
1	1
0	0
4	4
4	4
10	9
0	0
7	7
0	0
1	1
2	2
0	0
0	0
2	2
2	2
0	0
0	0
0	0
3	3
1	1
1	1
8	6

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

一般社団法人 日本病態栄養学会/
 公益社団法人 日本栄養士会 がん病態栄養専門管理栄養士

一般社団法人日本人類遺伝学会
 /一般社団法人日本遺伝カウンセリング学会 認定遺伝カウンセラー

特定非営利活動法人子ども療養支援協会 子ども療養支援士

一般社団法人日本チャイルド・ライフ・スペシャリスト 認定チャイルド・ライフ・スペシャリスト

特定非営利活動法人日本ホスピタル・プレイ協会 ホスピタル・プレイ・スペシャリスト
 (日本でカリキュラム受講・資格を取得した者)

ホスピタル・プレイ・スペシャリスト
 (英国でカリキュラム受講・資格取得をした者、health play specialistを含む)

0	0
1	1
0	0
4	4
0	0
0	0

1 診療体制		A	:必須 :原則 :望ましい :参考	はい:記載内容を満たしている いいえ:記載内容を満たしていない
(1) 診療機能				
① 集学的治療の提供体制および標準的治療等の提供				
ア	小児がんについて、手術療法、放射線療法および薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療（以下「標準的治療」という。）等小児がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。 専門とするがんについて別紙1に記載すること。	A	はい	(はい/いいえ)
イ	小児がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、以下のカンファレンスをそれぞれ必要に応じて定期的開催している。また、検討した内容については、診療録に記録の上、関係者間で共有している。 i 個別もしくは少数の診療科の医師を主体とした日常的なカンファレンス ii 個別もしくは少数の診療科の医師に加え、看護師、薬剤師、必要に応じて公認心理師や緩和ケアチームを代表する者等を加えた、症例への対応方針を検討するカンファレンス iii 手術、放射線診断、放射線治療、薬物療法、病理診断及び緩和ケア等に携わる専門的な知識及び技能を有する医師とその他の専門に異なる医師等による、骨転移・原発不明がん・希少がんなどに関して臓器横断的に小児がん患者の診断及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンス iv 臨床倫理的、社会的な問題を解決するための、具体的な事例に則した、患者支援の充実や多職種間の連携強化を目的とした院内全体の多職種によるカンファレンス iv のカンファレンスの開催回数（令和5年1月1日～12月31日）	A	はい	(はい/いいえ)
ウ	院内の他診療科や、小児がん連携病院、がん診療連携拠点病院等、地域の医療機関と協力し、小児がん患者に対して、移行期医療や成人後の晩期合併症対応等も含めた長期フォローアップ体制を構築している。 自ら病歴を確保・保存することや疾病理解、健康管理などに関する患者教育、患者啓発に努めている。 長期フォローアップ外来（小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来）を開設している。	A	はい	(はい/いいえ)
エ	AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)
オ	急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保している。	A	はい	(はい/いいえ)
カ	地域のがん・生殖医療ネットワークに加入し、「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」へ参画している。 対象となりうる患者および家族には必ずがん治療開始前に適切な情報提供を行い、患者等の希望も踏まえた妊孕性（注5）温存療法及びがん治療後の生殖補助医療に関する情報提供・意思決定支援を行う体制を整備している。 自施設において、がん・生殖医療に関する意思決定支援を行うことができる診療従事者の配置・育成に努めている。 がんの治療に際する妊孕性温存療法を自施設で実施できる。 生殖機能の温存の支援を行った患者数やその体制について別紙2に記載すること。	A	はい	(はい/いいえ)
キ	保険適用外の免疫療法等について、治験、先進医療、臨床研究法（平成29年法律第16号）で定める特定臨床研究または再生医療等の安全性の確保等に関する法律（平成25年法律第85号）に基づき提供される再生医療等の枠組み以外の形では、実施・推奨していない。	A	はい	(はい/いいえ)
② 薬物療法の提供体制				
	薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)
③ 緩和ケアの提供体制				
ア	小児がん診療に携わる全ての診療従事者により、全ての小児がん患者に対し適切な緩和ケアが提供される体制を整備している。 上記を支援するために、組織上明確に位置付けられた緩和ケアチームを整備している。 自施設で対応できない場合には地域のがん診療連携拠点病院等との連携体制を整備している。 (30.31がともに「はい」の場合には、「いいえ」を選択してください。) 緩和ケアチームの組織・体制について別紙3に記載すること。	A	はい	(はい/いいえ)
イ	外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備している。 緩和ケア外来について別紙4に記載すること。	B	はい	(はい/いいえ)
ウ	緩和ケアチーム並びに必要に応じて主治医および看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的開催している。 緩和ケアチームによるカンファレンスを開催した回数（令和5年1月1日～12月31日）	A	はい	(はい/いいえ)
エ	院内の見やすい場所に緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者およびその家族等に対し必要な情報提供を行っている。 情報提供の手段について簡潔に記載すること（例：医療機関のwebサイトに掲載）	A	はい	(はい/いいえ)
オ	小児がん連携病院やかかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医および看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明および指導を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
カ	小児の緩和ケアに関する要請および相談に関する受付窓口を設けるなど、小児がん連携病院や地域の医療機関および在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備している。 緩和ケア病棟について別紙5に記載すること。	A	はい	(はい/いいえ)
④ 地域連携の推進体制				
ア	小児がん連携病院や地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受け入れを行っている。 また、小児がん患者の状態に応じ、小児がん連携病院や地域の医療機関等へ小児がん患者の紹介を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
イ	小児がんの病理診断又は画像診断に関する依頼や手術療法、放射線療法又は薬物療法に関する相談など、小児がん連携病院や地域の医療機関等の医師と相互に診断及び治療に関する連携協力体制を整備している。 なお、がんゲノム医療中核拠点病院等と連携して、がん遺伝子パネル検査等に試料を提出するための体制も整備している。	A	はい	(はい/いいえ)
⑤ セカンドオピニオンの提示体制				
ア	医師からの診断結果や病状の説明時及び治療方針の決定時等において、すべての小児がん患者とその家族に対して、他施設でセカンドオピニオンを受けられることについて説明している。 その際、心理的な障壁を取り除くことができるよう留意している。	A	はい	(はい/いいえ)
イ	小児がんについて、手術療法、放射線療法又は薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制を有している。 また、小児がん連携病院がセカンドオピニオンを提示する体制を構築できるよう適切な指導を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
ウ	セカンドオピニオンを提示する場合に、必要に応じてオンラインでの相談を受け付けることができる体制を確保している。 セカンドオピニオンの提示体制、問い合わせ窓口について別紙6に記載すること。	B	はい	(はい/いいえ)

(2) 診療従事者

用語の定義:

専任: 当該診療の実施担当で、その他の診療を兼任していても差し支えないが、就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事しているもの。

専従: 就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に専ら従事しているもの。

※専任の人数には、専従も含めて記載すること。

① 専門的な知識および技能を有する医師の配置

Table with 4 columns: Item description, Category, Count, and Unit. Rows include pediatric oncology, surgery, radiation therapy, and palliative care staff counts.

② 専門的な知識及び技能を有する医師以外の診療従事者の配置

Table with 4 columns: Item description, Category, Count, and Unit. Rows include radiation therapists, pharmacists, nurses, and other support staff.

(3) その他の環境整備等

Table with 4 columns: Question, Answer, Count, and Unit. Rows address equipment for radiation therapy and internet access for patients/families.

(4) 診療実績

Table with 4 columns: Question, Answer, Count, and Unit. Rows report on new cases of pediatric cancer, solid tumors, and vascular tumors.

2 人材育成等			
(1) 自施設において、1に掲げる診療体制その他要件に関連する取組のために必要な人材の確保や育成に積極的に取り組んでいる。	A	はい	(はい/いいえ)
特に、診療の質を高めるために必要な学会が認定する資格等の取得についても積極的に支援している。	A	はい	(はい/いいえ)
学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。	-	はい	(はい/いいえ)
論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。	-	はい	(はい/いいえ)
(2) 拠点病院の長は、当該拠点病院においてがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師等の専門性及び活動実績等を定期的に評価し、当該医師等がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)
(3) 自施設の診療従事者等を中心に、小児がん対策の目的や意義、患者やその家族が利用できる制度や関係機関との連携体制、自施設で提供している診療・患者支援の体制について学ぶ機会を年1回以上確保している。	A	はい	(はい/いいえ)
自施設のがん診療に携わる全ての診療従事者が受講している。	B	いいえ	(はい/いいえ)
(4) 小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種診療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等を毎年定期的に開催し、人材育成等に努めている。	A	はい	(はい/いいえ)
小児がんに関する研修等の回数および研修プログラムの状況について別紙8に記載すること。		別紙8	
3 相談支援及び情報の収集提供			
(1) がん相談支援センター			
①から⑤に掲げる相談支援を行う機能を有する部門(以下「がん相談支援センター」という。なお、病院固有の名称との併記を認めた上で、「がん相談支援センター」と表記すること。)を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)
院内の見やすい場所にごん相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、がん相談支援センターについて積極的に広報している。	A	はい	(はい/いいえ)
小児がん患者及びAYA世代にあるがん患者に対しては、小児・AYA世代のがんに関する一般的な情報提供、療育・発達への支援等に加えて、ライフステージに応じた長期的な視点から、他の医療機関や行政機関、教育機関等と連携し、就学・就労・生殖医療等への相談対応や患者活動への支援等の幅広い相談支援が必要となることに十分に留意している。	A	はい	(はい/いいえ)
患者のみならず、患者のきょうだいを含めその家族に対する支援も行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
広報の手段について簡潔に記載すること(例: 医療機関のWebサイトに掲載)	-	病院のHPに掲載、院内にリーフレットを設置	
がん相談支援センターの体制について別紙9に記載すること。		別紙9	
がん相談支援センターの問い合わせ窓口について別紙10に記載すること。		別紙10	
① 国立研究開発法人国立がん研究センター(以下「国立がん研究センター」という。)による「がん相談支援センター相談員基礎研修」(1)(2)を受講後、国立成育医療研究センターが実施する「小児がん相談員専門研修」を修了した専任の相談支援に携わる者を1人以上配置している。	A	はい	(はい/いいえ)
国立がん研究センターによる「がん相談支援センター相談員基礎研修」(1)(2)を受講後、国立成育医療研究センターが実施する「小児がん相談員専門研修」を修了した者の人数	-	9	人
相談支援に携わる者は、対応の質の向上のために、「小児がん拠点病院相談員継続研修」等により定期的な知識の更新に努めている。	A	はい	(はい/いいえ)
小児がんに関する相談支援に携わる、看護師等の診療従事者の人数	-	1	人
小児がんに関する相談支援に携わる、社会福祉士の資格を有する者の人数	-	2	人
小児がんに関する相談支援に携わる、精神保健福祉士の資格を有する者の人数	-	1	人
② 患者やその家族に対し、必要に応じて院内の診療従事者が対応できるように、①に規定する者と医療従事者が協働できる体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)
③ 院内及び地域の診療従事者の協力を得て、院内外の小児がん患者・AYA世代にある患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)
相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体等との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。	B	はい	(はい/いいえ)
④ 小児がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場を設けている。	A	はい	(はい/いいえ)
その際には、十分な経験を持つ患者団体等と連携して実施するよう努めている。	A	はい	(はい/いいえ)
オンライン環境でも開催できる体制を整備している。	B	はい	(はい/いいえ)
小児がん患者およびその家族が語り合うための場の一覧を別紙11に記載すること。		別紙11	
小児がん患者およびその家族を対象とした小児がんの医療・支援に関する勉強会等を開催した回数(令和5年1月1日～12月31日)	-	2	回
⑤ がん相談支援センターについて、診療の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう繰り返し案内を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
がん治療の終了後も長期的に利用可能な旨も併せて説明している。	A	はい	(はい/いいえ)
相談支援センターにおいて、以下の業務を行っている。(相談件数については、1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して良い。)			
ア 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)
アの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	0	件
上記アのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	0	件
イ 領域別的小児がん診療機能、診療実績および医療従事者の専門とする分野・経歴など、小児がん連携病院等および医療従事者に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)
イの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	1	件
上記イのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	1	件
ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介をしている。	A	はい	(はい/いいえ)
ウの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	1	件
上記ウのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	1	件
エ 小児・AYA世代のがん患者の発育及び療養上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)
エの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	781	件
上記エのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	734	件
エのうち、発育に関する相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	29	件
上記発育に関する相談件数のうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	29	件
エのうち、教育に関する相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	126	件
上記教育に関する相談件数のうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	126	件
エのうち、就労に関する相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	14	件
上記就労に関する相談件数のうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	14	件
エのうち、がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センター等と連携し対応した相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	2	件
上記の「がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センター等と連携し対応した相談件数」のうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	2	件
オ がん・生殖医療に関する相談に対応し支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
オの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	3	件
上記オのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	3	件
カ 長期フォローアップに関する相談に対応し支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
カの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	25	件
上記カのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	18	件
キ がんゲノム医療に関する相談に対応し支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
キの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	0	件
上記キのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	0	件
ク アピアランスケアに関する相談に対応し支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
クの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	24	件
上記クのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	24	件

ケ	患者のきょうだいを含む家族に対する支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
	ケの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	4	件
	上記ケのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	4	件
コ	医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)
	コの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	5	件
	上記コのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	5	件
サ	必要に応じて、小児がん連携病院や地域の医療機関等に対して相談支援に関する支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
	サの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	5	件
	上記サのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	5	件
シ	その他相談支援に関することをやっている。	A	はい	(はい/いいえ)
	シの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	0	件
	上記シのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	0	件
(2)院内がん登録				
①	がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)第44条第1項の規定に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針(平成27年厚生労働省告示第470号)に即して院内がん登録を実施している。	A	はい	(はい/いいえ)
②	院内がん登録の指針に基づき国立がん研究センターが提供する研修で認定を受けており、かつ中級認定者相当の技能を有する院内がん登録の実務を担う者の人数。	A	1	人 1人以上
	うち専従者の人数	-	1	人
	配置された者は国立がん研究センターが示すがん登録に係るマニュアルに習熟している。	A	はい	(はい/いいえ)
③	毎年、最新の登録情報や、予後を含めた情報を国立がん研究センターに提供している。	A	はい	(はい/いいえ)
④	院内がん登録を活用することにより、都道府県の実施するがん対策等に必要情報を提供している。	A	はい	(はい/いいえ)
(3)診療実績、診療機能等の情報提供				
	小児がん及びAYA世代で発症するがんについて、自施設及び自らが指定した小児がん連携病院の診療実績、診療機能及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供している。	A	はい	(はい/いいえ)
	大規模災害や感染症の流行などにより自院の診療状況に変化が生じた場合には、速やかに情報公開をするよう努めている。	A	はい	(はい/いいえ)
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-		医療機関のwebサイトに掲載
4 患者の発育及び教育等に関して必要な環境整備				
(1)	保育士を配置している。	A	はい	(はい/いいえ)
	小児がん患者の保育に携わる保育士の人数	-	14	人
	小児がん患者の保育に携わる保育士のうち常勤の人数	-	13	人
(2)	病弱等の特別支援学校または小中学校の病弱・身体虚弱等の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われている。	A	はい	(はい/いいえ)
	義務教育段階だけではなく、高等学校段階においても必要な教育支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
	特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。	-	はい	(はい/いいえ)
	特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。	-	はい	(はい/いいえ)
	病院内に特別支援学級が設置されている。	-	はい	(はい/いいえ)
(3)	退院時の復園および復学支援が行われている。	A	はい	(はい/いいえ)
(4)	子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)
	AYA世代(思春期および若年成人)のための場所を確保している。	-	はい	(はい/いいえ)
(5)	家族等が利用できる長期滞在施設またはこれに準じる施設が整備されている。	A	はい	(はい/いいえ)
	部屋数	-	29	部屋
	長期滞在施設が自施設内に設置されている。	-	いいえ	(はい/いいえ)
	長期滞在施設またはこれに準じる施設について別紙12に記載すること。	-		別紙12
(6)	家族等の希望により、24時間面会または患者の付き添いのできる体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)
	この体制の質の向上についても積極的に取り組んでいる。	A	はい	(はい/いいえ)
(7)	患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	B	はい	(はい/いいえ)
(8)	教育課程によらず、切れ目のない教育支援のためにICT(情報通信技術)等を活用した学習活動を含めた学習環境の整備を進めている。	A	はい	(はい/いいえ)
(9)	小児がん患者の精神的なケアに関して、対応方法や関係機関との連携について明確にしている。	A	はい	(はい/いいえ)
	関係職種に情報共有を行う体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)
	自施設に精神科、心療内科等があり、自施設で対応できる体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)
	自施設に精神科、心療内科等がない場合は、地域の医療機関と連携体制を確保している。	-	いいえ	(はい/いいえ)
	(自施設に精神科・心療内科等があり、自施設で小児がん患者の精神的なケアができる場合には「いいえ」を選択してください。)	-		
5 臨床研究等に関すること				
	他の拠点病院や小児がん連携病院とも連携し、オールジャパン体制で臨床研究を推進している。	A	はい	(はい/いいえ)
(1)	治験を除く臨床研究を行うに当たっては、臨床研究法(平成29年法律第16号)に則った体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)
(2)	進行中の治験を除く臨床研究の概要および過去の治験を除く臨床研究の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-		医療機関及びJCCGのHPIに記載
(3)	自施設で参加可能な治験について、その対象であるがんの種類および薬剤名等を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-		医療機関及びJCCGのHPIに記載
(4)	臨床研究を支援する専門の部署を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)
	設置していない場合は設置の予定時期	-	年 月	(西暦XXXX年XX月)
(5)	臨床研究コーディネーター(CRC)を配置している。	B	はい	(はい/いいえ)
	臨床研究コーディネーターを配置している場合、その人数(設置していない場合は0と記入)	-	8	人
(6)	小児がん中央機関等と連携して、治験に関して患者に対する情報提供に努め、国内の連携体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)
	臨床研究の問い合わせ窓口について別紙13に記載すること。	-		別紙13
	小児がんに関する、臨床研究の実施総件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	29	件
	小児がんに関する、臨床試験以外の臨床研究実施総件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	22	件
	小児がんに関する、治験の実施総件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	12	件

6 医療の質の継続的な評価改善の取組及び安全管理			
(1)	自施設及び小児がん連携病院の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を関係者で共有した上で、適切な改善策を講じている。 把握・評価の方法、改善策等について別紙14に記載すること。	A	はい (はい/いいえ) 別紙14
(2)	これらの実施状況につき、地域ブロック協議会において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報を行っている。 地域への広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	A	はい (はい/いいえ) - QI報告書、ご意見等の院内掲示
(3)	小児がん医療について、外部機関による技術能力についての施設認定(以下「第三者認定」という。)を受けた医療施設である。 一般社団法人日本小児血液・がん学会が認定する「日本小児血液・がん専門医研修施設」である。 一般社団法人日本小児外科学会が認定する「認定施設」である。	A	はい (はい/いいえ) - はい (はい/いいえ) - はい (はい/いいえ)
(4)	小児がんに係る骨髄・さい帯血等の移植医療について、第三者認定を受けた医療施設である。 一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会の非血縁者間造血幹細胞移植を施行する診療科の認定カテゴリーについてご回答ください。	A	はい (はい/いいえ) - 1 (1/2/3)
(5)	医療法(昭和23年法律第205号)に基づく医療安全にかかる適切な体制を確保している。 日本医療機能評価機構の審査等の第三者による評価を受けている。	A	はい (はい/いいえ) A はい (はい/いいえ)
その他 医療安全体制			
(1)	組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。また、当該部門の長として常勤の医師を配置している。	-	はい (はい/いいえ)
(2)	医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、専任で常勤の薬剤師及び専従で常勤の看護師を配置している。	-	はい (はい/いいえ)
(3)	医療安全管理者は、医療安全対策に係る研修を受講している。	-	はい (はい/いいえ)
(4)	当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施している。 当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施する場合は、以下の体制を整備している。※上段で「いいえ」の場合、以下の3つの項目は、「-」を選択してください。 ① 当該医療の適応の安全性や妥当性、倫理性について検討するための組織(倫理審査委員会、薬事委員会等。なお当該組織は既設の組織であっても構わない。)において、病院として事前に検討を行っている。 ② 事前検討を行い、承認された医療を提供する際には、患者・家族に対し適切な説明を行い、書面での同意を得た上で提供している。 ③ 提供した医療について、事後評価を行っている。	-	はい (はい/いいえ/-) - はい (はい/いいえ/-) - はい (はい/いいえ/-)
(5)	医療安全のための患者窓口を設置し、患者からの苦情や相談に応じられる体制を確保している。 医療安全体制について別紙15に記載すること。	-	はい (はい/いいえ) 別紙15
未充足の要件			
	必須要件のうち、令和6年9月1日時点で充足していないものについて、別紙16に記載すること。		別紙16

各種小児がんの情報

記載の有無: 入力済 / 未入力あり 入力済

小児がんについての対応状況を記載してください。

※ 各医療機関において「専門とするがん」とは、集学的治療および緩和ケアを提供する体制が整備されているとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等のがん患者の状態に応じた

適切な治療を提供する体制が整備されているがんのことをさします。

※ 診療を実施していないがんについて、表の記載は不要です。

小児脳腫瘍 病院名: 国立成育医療研究センター

○ (○: 専門とするがん / ×: 診療を実施していないがん)

時期・期間: 令和6年9月1日現在(実績は令和5年1月1日～12月31日)

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数													各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (3診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法				陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください				※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容				
					体外照射	定位放射線療法	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)			治療内容	治療実績	医師の専門分野		
														見出し	アドレス				
1	小児がんセンター	19	10	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	脳腫瘍や脊髄腫瘍などの中枢神経系腫瘍の診断や治療を行います。脳神経外科、放射線治療科と一体となって、あらゆる小児脳腫瘍に対応してチーム医療を提供します。日本小児がん研究グループの複数の脳腫瘍の多施設共同臨床試験へ積極的に参加しています。また新規治療薬の治験も複数行っています。	脳神経腫瘍科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/shuyouka.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2	脳神経外科	5	2	○	×	×	×	×	×	×	×	×	小児脳腫瘍の治療は、個々の病態に応じたテーラーメイドの治療が必要です。各専門医の協力のもと、脳腫瘍カンファレンスで治療方針を決定し、手術・化学療法・放射線療法による包括的な治療を行っています。外科治療は、必要に応じて、神経ナビゲーションを用い、脳の深部から脊髄までの腫瘍摘出を行います。	脳神経外科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/geka/noushinkei.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
3	放射線治療科	2	2	×	×	○	○	○	×	×	×	×	小児がんセンター、小児外科、脳神経外科と協力して、小児に発生したがん全般の放射線治療を担当します。代表的な小児がんである脳腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫、ユースング腫瘍等が放射線治療の対象となります。白血病などの骨髄移植前処置の全身照射も行っています。	放射線治療科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/radiation/chiryu.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり	

その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください	治療名	治療内容
他の治療(1)	自家造血幹細胞移植を伴う大量化学療法	
他の治療(2)		
他の治療(3)		

治療実績のある疾患名 ※(令和5年1月1日～12月31日)	異形奇形腫瘍/ラブドイド腫瘍、髄芽腫、毛様細胞性星細胞腫、神経鞘腫、神経節腫、グリオーマ、中枢神経胚細胞腫、ジャーミノーマ、びまん性星細胞腫、びまん性橋脚腫(DIPG)、上衣腫、上衣下巨細胞性星細胞腫(SEGA)、胎芽異形成性神経上皮腫瘍(DNT)、頭蓋咽頭腫、神経線維腫症1型・2型
----------------------------------	--

小児の眼・眼窩腫瘍

○：専門とするがん/×：診療を実施していないがん

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数															当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (3診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	冷凍凝固術	光凝固術	化学療法	眼動注	放射線療法			陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容		
								体外照射	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野
1 小児がんセンター	19	10	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	網膜芽細胞腫の診断や治療を行います。眼科、放射線治療科と一体となって、チーム医療を提供します。	固形腫瘍科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/shuyouka.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2 眼科	8	4	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	小児眼科分野での高度先進医療センターとして機能し、専門の医師や視能訓練士が経験と技術を活かし、多数の手術、治療、訓練を行っています。網膜芽細胞腫に対しては、小児がんセンター・放射線診断科・放射線治療科と連携し集学的治療を行っています。眼動注療法など特殊な局所療法が必要な症例では、国立がん研究センター眼腫瘍科と連携して治療を行います。	眼科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/geka/ganka.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
3 放射線治療科	2	2	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	小児がんセンター、小児外科、脳神経外科と協力して、小児に発生したがん全般の放射線治療を担当します。代表的な小児がんである脳腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫、ユーリング腫瘍等が放射線治療の対象となります。白血病などの骨髄移植前処置の全身照射も行っています。	放射線治療科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/radiation/chiryu.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください			治療名										治療内容							
他の治療(1)			自家造血幹細胞移植を伴う大量化学療法																	
他の治療(2)																				
他の治療(3)																				
治療実績のある疾患名 ※(令和5年1月1日～12月31日)			網膜芽細胞腫																	

小児悪性骨軟部腫瘍

○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数													当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ								
主な診療科名 (3診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数					化学療法	放射線療法		陽子線治療	重粒子線治療	その他の治療法があれば記載※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容			
			切・離断術	患肢温存術	再建術	骨移植術		体外照射	小線源治療			他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野	
1 小児がんセンター	19	10	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	骨肉腫、ユーイング肉腫ファミリー腫瘍など、小児の悪性骨軟部腫瘍の診断や治療を行います。当センター整形外科、連携している慶應病院整形外科、小児外科、放射線治療科と一体となって、チーム医療を提供します。日本小児がん研究グループのユーイング腫瘍や横紋筋肉腫の多施設共同臨床試験へ積極的に参加しています。	固形腫瘍科	http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/shuyouka.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2 整形外科	8		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	小児の骨軟部腫瘍については、小児特有の疾患や病態があります。そのため、専門的な知識・経験を持った医師が1か月に2回、専門外来を担当しています。悪性骨軟部腫瘍に対しては、小児がんセンター・放射線診断科・放射線治療科と連携し集学的治療を行っています。	整形外科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/zouki-undouki/seikei.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
3 腫瘍外科・小児外科	12	6	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	当院の固形がん手術件数は全国トップレベルで、豊富な経験と知識に基づき最善の外科治療を提供できる体制を整えています。また、小児専門病院の強みとして、専門性の高い各診療科が連携して高度医療を提供しており、小児がんセンターの内科系診療科、放射線診断科、放射線治療科との連携による集学的治療に取り組んでいます。多くの手術は小児外科とのチームを編成して行います。この他、疾患により臓器移植センター、泌尿器科、心臓血管外科ほか、外科系診療科との密な連携をとり、幅広い領域にわたり標準的な治療から難易度の高い治療まで対応しています。	腫瘍外科 小児外科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about-geka.html https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/zouki-undouki/geka.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください			治療名											治療内容							
他の治療(1)																					
他の治療(2)																					
他の治療(3)																					
治療実績のある疾患名 ※(令和5年1月1日～12月31日)			ユーイング肉腫、横紋筋肉腫																		

その他の小児固形腫瘍

○：専門とするがん/×：診療を実施していないがん

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数											各診療科における当該疾患の診療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (3診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法		陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください				※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容				
					体外照射	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)			治療内容	治療実績	医師の専門分野		
													見出し	アドレス			
1	小児がんセンター	19	10	×	○	×	×	×	○	×	×	神経芽腫、横紋筋肉腫、肝腫瘍、腎腫瘍、胚細胞腫瘍など小児の悪性固形腫瘍の診断や治療を行います。日本小児がん研究グループの多施設共同臨床試験へ積極的に参加しています。当センターの多くのスタッフが主要な小児がんの疾患委員となっており、特に神経芽腫については、臨床試験の企画、実施に積極的に関与しています。	固形腫瘍科	http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/shuyouka.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2	腫瘍外科・小児外科・移植外科	27	13	○	×	×	×	×	×	○	×	当院の固形がん手術件数は全国トップレベルで、豊富な経験と知識に基づき最善の外科治療を提供できる体制を整えています。また、小児専門病院の強みとして、専門性の高い各診療科が連携して高度医療を提供しており、小児がんセンターの内科系診療科、放射線診断科、放射線治療科との連携による集学的治療に取り組んでいます。多くの手術は小児外科とのチームを編成して行います。この他、疾患により臓器移植センター、泌尿器科、心臓血管外科ほか、外科系診療科との密な連携をとり、幅広い領域にわたり標準的な治療から難易度の高い治療まで対応しています。	腫瘍外科 小児外科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/shuyou-geka.html https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/zouki-undouki/geka.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
3	放射線治療科	2	2	×	×	○	×	×	×	×	○	小児がんセンター、小児外科、脳神経外科と協力して、小児に発生したがん全般の放射線治療を担当します。代表的な小児がんである脳腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫、ユーズン腫瘍等が放射線治療の対象となります。白血病などの骨髄移植前処置の全身照射も行っています。	放射線治療科	http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/radiation/chiryu.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください			治療名								治療内容						
他の治療(1)			自己造血幹細胞移植を伴う大量化学療法														
他の治療(2)			肝腫瘍に対する生体肝移植								移植外科が協力して肝腫瘍の外科療法に取り組んでいる。 https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/special/about.html						
他の治療(3)																	
治療実績のある疾患名 ※(令和5年1月1日～12月31日)			神経芽腫、神経節神経芽腫、叢状神経線維腫、腎肉腫、腎芽腫、肝芽腫、横紋筋肉腫(四肢以外)、奇形腫、胚細胞腫、胸腺腫														

小児血液腫瘍

○：専門とするがん/×：診療を実施していないがん

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数													各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
主な診療科名 (3診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	化学療法	移植			放射線療法		その他の治療法があれば記載※下記のその他の治療法欄と合わせてください			※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容				
				自家末梢血幹細胞移植	血縁者間同種造血幹細胞移植	非血縁者間同種造血幹細胞移植	体外照射	全身照射	他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)			見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野
1 小児がんセンター	19	10	○	○	○	○	×	×	○	×	×	白血球、リンパ腫、組織球症など小児の造血器悪性腫瘍の診断や治療を行います。本小児がん研究グループの多施設共同臨床試験に属し、多施設共同臨床研究を行っています。白血病・リンパ腫に関しては、初発のみならず再発・難治症例も数多く診療しています。また、ランゲルハンス細胞組織球症の症例数は国内で有数の施設の一つで、特に急性白血病、ランゲルハンス細胞組織球症については、臨床試験の企画、実施に積極的に関与しています。	血液腫瘍科	http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/shuyouka.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
2 放射線治療科	2	2	×	×	×	×	○	○	×	×	×	小児がんセンター、小児外科、脳神経外科と協力して、小児に発生したがん全般の放射線治療を担当します。代表的な小児がんである脳腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫、ユーイング腫瘍等が放射線治療の対象となります。白血病などの骨髄移植前処置の全身照射も行っています。	放射線治療科	http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/radiation/chiryu.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
3 病理診断部	5	5	×	×	×	×	×	×	×	×	×	病理診断科では、組織診断、細胞診断、病理解剖診断を行っています。免疫組織化学検査、電子顕微鏡検査、遺伝子検査等の特殊検査を行い、より精度の高い診断を目指しています。小児がんにおいては、病理診断だけでなく、悪性度・予後を予測する遺伝子異常の検査も行っています。また、小児がんの多施設共同臨床試験の中央病理診断を担当しています。	病理診断部	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/pathology/about.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり	

その他の治療法 ※上記の実績欄と合わせて記載してください	治療名	治療内容
他の治療(1)	キメラ抗原受容体遺伝子T細胞(CART)療法	再発・難治急性リンパ性白血病を対象とした自家遺伝子改変T細胞療法
他の治療(2)		
他の治療(3)		

治療実績のある疾患名 ※(令和5年1月1日～12月31日)	急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、ダウソウ症に伴う急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍、ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫、ランゲルハンス細胞組織球症
----------------------------------	--

生殖機能の温存の支援を行う体制

記載の有無: 入力済 / 未入力あり 入力済

病院名: 国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和6年9月1日現在(実績は令和5年1月1日～12月31日)

■ 令和5年1月1日～12月31日の期間に生殖機能の温存の支援を行った患者数について記載すること。

	がん治療に際して以下にかかる治療を自施設で行った患者数	がん治療に際して以下にかかる治療を他施設へ紹介して行った患者数
がんの治療に際する妊孕性温存目的で精子凍結を行った患者の数	0	0
上記のうち、がんの治療に際する妊孕性温存目的で精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の数	0	0
がんの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵子の凍結保存を行った患者の数	0	3
がんの治療に際する妊孕性温存目的で受精卵(胚)の凍結保存を行った患者の数	0	0
がんの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の数	0	10

上記のうち、温存療法施行時に【20歳未満】である患者数について内数を以下に記載すること。

	がん治療に際して以下にかかる治療を自施設で行った患者数	がん治療に際して以下にかかる治療を他施設へ紹介して行った患者数
がんの治療に際する妊孕性温存目的で精子凍結を行った患者の数	0	0
上記のうち、がんの治療に際する妊孕性温存目的で精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の数	0	0
がんの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵子の凍結保存を行った患者の数	0	3
がんの治療に際する妊孕性温存目的で受精卵(胚)の凍結保存を行った患者の数	0	0
がんの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の数	0	10

■ がん患者の妊孕性温存に関する連携協力体制について記載すること。

①相談に対応している部署

- がん相談支援センター
- 化学療法室
- 各診療科外来
- その他部署

②他施設に紹介する場合の施設名

はい	(はい/いいえ)	
はい	(はい/いいえ)	
はい	(はい/いいえ)	
不妊診療科		(複数回答可)
聖マリアンナ医科大学病院		(複数回答可)

■生殖機能の温存の支援を行う体制について記載すること。(他施設との連携がある場合は、その連携についても記載すること)

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙2を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 なし (あり/なし)

ファイル形式 (ワード/エクセル/パワーポイント/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

妊孕性温存に関しては、両親に話をした上で、9~10歳以降は、本人へ情報提供を行っている。また、治療終了後、退院前や長期フォローアップ外来で情報提供を行うようにしている。
また、こどもサポートチームを中心とした多職種連携により、身体的、精神的サポートを行っている。

主な連携としては、聖マリアンナ医科大学の産婦人科と連携を行い、男性精子保存に関しては、獨協医科大学埼玉医療センターリプロダクションセンターや都内のクリニックと連携を行っている。

治療が終わったあとのこと

～女の子のからだ～

～男の子のからだ～

どんな話には相談してね

- ▶ 小学校1年生 (7歳6ヶ月) までに胸がふくらんでくとき
- ▶ 小学校の毎生退校までこわさずお母さん(姉妹)がきいてくれたとき
- ▶ 10歳8ヶ月までに生帯が降りてきたとき
- ▶ 中学校に入っても胸がふくらまないとき
- ▶ 以前は生帯があったのに、治療が終わった後には来らぬとき

誰に相談?

- ▶ 主治医/外来看護師
- ▶ 院内外来
- ▶ 生帯外来
- ▶ 専門看護師 など

あなたの身体について、話してみませんか?

治療が終わったあとのこと

みんなの身体はほとんど成長していますが、小学校卒業くらいから、女の子は女の子の遅い(遅い)がはつきり出てきます。これは治療から治療が止まる、治療の時にある結果(らんそく)からホルモンが出るからです。

からだの変化

8-13歳 思春期のスタート

10-11歳 乳房の発育

胸の下の腋部に恥毛

12-13歳 閉経(空室の始まる)

※個人差があります

性腺機能障害とは

- ▶ 二次性徴が見られない
- ▶ 生帯が来ない、生帯遅く来ない
- ▶ 生帯の量が多い・少ない
- ▶ 巨乳の時の身体の成長がつかない
- ▶ 不妊
- ▶ 生帯がこくに遅く来たり早来(早閉経)
- ▶ 骨粗しょう症

性腺機能障害の治療

- ▶ ホルモン補充療法

妊娠1歳について

- ▶ 産んだ場合の産後経過
- ▶ 産後経過を考えた治療での経過・出産後には性腺機能障害の発症の予防
- ▶ アントロサイクリン系薬剤が有効
- ▶ 性腺機能障害の予防
- ▶ 産後経過治療について
- ▶ 精子保存、卵子保存

何が大変?

- ・ 成長遅延(身長、体重)
- ・ 骨密度
- ・ Tanner分類
- ・ 経期困難
- ・ LH黄体化ホルモン
- ・ FSH(卵巣刺激ホルモン)
- ・ テストステロン

どんな話には相談してね

- ▶ 15歳以降で二次性徴が見られないとき
- ▶ 9歳未満で二次性徴が見られるとき

誰に相談?

- ▶ 主治医/外来看護師
- ▶ 内分泌科医
- ▶ 専門看護師 など

あなたの身体について、話してみませんか?

治療が終わったあとのこと

みんなの身体はほとんど成長していますが、小学校卒業くらいから、男の子は女の子の遅い(遅い)がはつきり出てきます。これは治療から治療が止まる、治療の時にある結果(らんそく)からホルモンが出るからです。

からだの変化

9-14歳 思春期のスタート

11-15歳 陰毛・腋毛の成長、はち巻毛(わき毛、ひげ毛、胸毛)の伸び始める

約17歳~20歳 減量スタート

胸や脇毛が茂る、体つきががっしりしてくる

20歳より早く、18歳前後で閉経(初めの閉経)が来ることがある

性腺機能障害とは

- ▶ 二次性徴が見られない
- ▶ 性成熟の停止
- ▶ 精子減少症・精子症
- ▶ 不妊
- ▶ 陰萎
- ▶ 性衝動の亢進、勃起障害
- ▶ 密閉期の低下、骨密度の低下
- ▶ 思春期閉経

性腺機能障害の治療

- ▶ 男性ホルモン補充療法

牛乳補助医療、精子保存について

緩和ケアチームの組織・体制

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和6年9月1日現在

緩和ケアチームの総人数: 14

上記のうち、小児がん診療に携わる人数: 14

緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師(常勤であることが望ましい)、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師(常勤であることが望ましい)、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。

緩和ケアチームの名称		緩和ケアチーム		
職種		常勤 / 非常勤	専門分野	資格等
例	医師、看護師、薬剤師	常勤 / 非常勤	麻酔科、精神科、がん看護	緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。
1	医師	常勤	身体症状担当: 緩和ケア科	緩和医療学会認定緩和医療専門医、緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
2	医師	常勤	精神症状担当: こころの診療科	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
3	看護師	常勤	緩和ケア	緩和ケア認定看護師
4	薬剤師	常勤	緩和ケア	緩和ケア認定薬剤師
5	臨床心理士 / 公認心理士	常勤	小児がん患者・家族の心理支援	
6	ソーシャルワーカー	常勤	小児がん患者家族支援	
7	作業療法士	常勤	小児がんにおける発達評価とリハビリテーション	
8	チャイルド・ライフ・スペシャリスト	常勤	医療環境にあるこどもや家族への心理社会的支援	
9	栄養士	常勤	小児がん患者の栄養管理と食事の工夫	
10	医師	非常勤	身体症状担当: 緩和ケア科	
11	栄養士	常勤	小児がん患者の栄養管理と食事の工夫	
12	薬剤師	常勤	緩和ケア	
13	ファシリティー・ドッグハンドラー	常勤		
14	看護師	常勤	緩和ケア担当看護師長	
15				

緩和ケア外来の状況

記載の有無: 入力済 / 未入力あり 入力済

病院名: 国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和6年9月1日現在

1	緩和ケア外来が設定されている (はい/いいえ)				はい	
2	緩和ケア外来の名称 緩和ケア外来					
3	担当診療科名 総合診療部緩和ケア科					
4	主な診療内容・特色 緩和医療専門医が担当 ・からだのつらさの評価と対応についての相談 (痛み、息切れ、吐き気など) ・こころのつらさの評価と対応についての相談 (不眠、不安、いらいらなど) ・これからの生活、療養についての相談 ・学校や社会生活、家族に関する相談 ・治療や療養における意思決定支援					
5	緩和ケア外来の説明が掲載されているページ		見出し	緩和ケア科 受診方法		
			アドレス	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/general/kanwacare.html		
6	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている (はい/いいえ)				はい	
7	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)				はい	
	窓口の名称		小児がん相談支援センター			
	電話	代表	03-3416-0181	(内線)	直通	
8	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)				はい	
	窓口の名称		小児がん相談支援センター			
	電話	代表	03-3416-0181	(内線)	直通	

緩和ケア病棟の状況

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和6年9月1日現在

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している	病棟があります			
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理	届け出していない			
3	小児の入院可否	可			
4	緩和ケア病棟の形式	院内病棟型			
5	緩和ケア病棟の病床数	1	床		
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	見出し	もみじの家		
		アドレス	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/momiji/index.html		
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている (はい/いいえ)	はい			
8	入院予約後の入院までの待機期間 ※転棟、緊急入院を除く	一週間程度			
9	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数(人) ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	(例) 医師	2	(例) 精神保健福祉士	1
		医師	2		
		看護師	15		
		保育士	2		
		介護福祉士	1		

■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										いいえ
10	窓口の名称		もみじの家							
	電話	代表	03-5494-7135	(内線)				直通		
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ		見出し	もみじの家			アドレス	https://home-from-home.jp/		
■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										いいえ
11	窓口の名称		もみじの家							
	電話	代表	03-5494-7135	(内線)				直通		
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ		見出し	もみじの家			アドレス	https://home-from-home.jp/		
12	緩和ケア病棟の設備		例：家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム（食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある）、特殊入浴室 家族宿泊室、家族用キッチン、デイルーム（ボランティアによるティーサービスあり）、ランドリー、活動の部屋（保育士、介護福祉士による日中活動あり）、センソリールーム、音楽室、特殊入浴室、家族風呂							
13	訪問看護ケアの有無		例：自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など なし							

**小児がんに対して、手術、放射線療法または化学療法に携わる専門的な知識
および技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制**

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和6年9月1日現在(実績は令和5年1月1日～12月31日)

■ 病院のホームページで「セカンドオピニオン」の説明が掲載されているページの内容

ホームページ	見出し	セカンドオピニオンのご案内	アドレス	https://www.ncchd.go.jp/hospital/second_opinion/index.html		
問い合わせ先の電話など	対応可能な疾患名	対応した患者数(実績)	担当する医師の情報			保険診療、または保険外診療である旨
			医師名	診療科	専門分野	
掲載あり	掲載あり	掲載なし	掲載あり	掲載あり	掲載あり	掲載あり

疾患ごとに、セカンドオピニオンを担当する医師に関する情報を5名まで記載してください。

※対応状況で「対応不可」を選択した場合は、「セカンドオピニオンを担当している医師」に関する表への記載は不要です。

小児脳腫瘍

○	※別紙1を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可 / 対応不可)	対応可	昨年実績 ※令和5年1月1日～12月31日まで	40	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門: ○ / 専門外: ×)	当該疾患の専門分野(専門: ○ / 専門外: ×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	脳神経外科	○	○	×	×	
2人目	放射線治療科	○	×	×	○	
3人目	小児がんセンター	○	×	○	×	

小児の眼・眼窩腫瘍

○	※別紙1を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可 / 対応不可)	対応不可	昨年実績 ※令和5年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門: ○ / 専門外: ×)	当該疾患の専門分野(専門: ○ / 専門外: ×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	眼科	○	○	×	×	
2人目	脳神経外科	○	○	×	×	
3人目	小児がんセンター	○	×	○	×	

小児悪性骨軟部腫瘍

○	※別紙1を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和5年1月1日~12月31日まで	1	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	整形外科	○	×	×	×	
2人目	腫瘍外科	○	○	×	×	
3人目	放射線治療科	○	×	×	○	

その他の小児固形腫瘍

○	※別紙1を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和5年1月1日~12月31日まで	24	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	腫瘍外科	○	○	×	×	肝移植の専門医あり
2人目	放射線治療科	○	×	×	○	
3人目	小児がんセンター	○	×	○	×	

小児血液腫瘍

○	※別紙1を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和5年1月1日~12月31日まで	26	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児がんセンター	○	×	○	×	造血幹細胞移植、キメラ抗原遺伝子T細胞(CART)療法
2人目	小児がんセンター	○	×	○	×	造血幹細胞移植、キメラ抗原遺伝子T細胞(CART)療法
3人目	小児がんセンター	○	×	○	×	造血幹細胞移植、キメラ抗原遺伝子T細胞(CART)療法

小児がんに関する研修の状況

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和5年4月1日～令和6年3月31日

■ 令和5年4月1日～令和6年3月31日の期間で開催した、小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種診療従事者も参加する研修会等の回数について記載すること

研修会等の総回数(実数)(重複カウント不可 例: 診療と臨床試験に関する講義を1つずつ行った研修→1回でカウント)	21
研修会等の総回数(重複カウント可 例: 診療と臨床試験に関する講義を1つずつ行った研修→診療と臨床試験にそれぞれ1回ずつカウント)	
うち小児がんの診療に関する研修会等の回数	17
うち小児がんの相談支援に関する研修会等の回数	5
うち小児がんのがん登録に関する研修会等の回数	0
うち小児がんの臨床試験に関する研修会等の回数	0
うち小児がんに関するその他の研修会等の回数	7

■ 研修の内容について最大5つ、以下に記載すること

※ただし、参加人数については、自施設・自施設以外の内訳が不明である場合には、総数の欄にのみ記載し、自施設・自施設以外の欄は0を記入すること。

研修の名称	研修の内容・特徴	参加人数				総数	実施形態 ① 実地開催のみ ② 実地+オンラインのハイブリッド開催 ③ オンライン開催のみ	他地域ブロックからの参加の可否 ① 他地域ブロックからの参加が可能である。 ② 同一地域ブロック内の施設のみ参加可能である。
		自施設	自施設以外					
			小児がん拠点病院	小児がん連携病院	その他			
1 小児がん緩和ケアレクチャー	小児緩和医療において必要となる知識や姿勢を身につけることを目的とした講演形式の研修を開催 下記をテーマに4回にわたって実施した ・「小児患者におけるアドバンス・ケア・プランニングについて考える」 ・「思春期のこどもとの関わり」 ・「非がん疾患に対する緩和ケア～がんとの類似点、違いから考える～」 ・「こどもたちの暮らしと希望を支える～病院の外からこどもを支える団体の取り組みより～」 また、小児がん緩和ケアレクチャー開催後、同テーマで「せいいくケアカフェ」として地域の様々な分野で重症児のケアに携わる職種(医療職、行政職など)を交えた交流会を開催し、意見交換を行い、今後の子どものケアにおける情報共有を促進を図っている	0	0	0	0	625	③	①
2 看護セミナー	小児がん看護に携わる上で必要となる基礎的な知識・技能の学習を目的としたe-ラーニングを使用した研修	0	0	0	0	1,140	③	①
3 小児がんリハビリテーション研修	小児がん診療を行う施設に所属するリハビリテーションについては経験の蓄積が少なく、経験の共有が重要であるため、セラピスト同士が学び交流する機会をつくり、質の向上につなげるための課題の抽出、今後の方向性を検討する研修を対面で開催。	18	11	24	0	53	①	①
4 小児がん緩和ケアチーム研修	重篤な疾患を抱えるこどもと家族に対して、適切な緩和ケアチーム医療を提供できる 体制を整備するため、全国の小児がん拠点病院及び小児専門施設の緩和ケアチームの質の向上と機能強化をはかるための研修を開催。今年度は対面開催でを行い、お互いの課題を共有し今後の活動につなげられるような形で実施した。	8	39	12	0	59	①	①
5 LCASアドバンス研修	一般社団法人日本小児血液・がん学会と共同開催。LCAS受講者を対象に、アドバンス研修として長期フォローアップ/トランジションにおける施設での困難事例をベースに、長期フォローアップ/トランジションのフローとバリエーションへの対応を検討する研修を開催。事例検討として、同種移植、固形腫瘍、脳腫瘍の事例を取り扱った。	2	27	48	0	77	③	①

がん相談支援センターの体制、相談件数と相談支援内容

記載の有無: 入力済/未入力あり

入力済

病院名: 国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和6年9月1日現在

	職種	常勤/非常勤	専従/専任/その他※1	相談業務の 経験年数(年)	相談員基礎研修の受講状況			小児がん相談員 専門研修	小児がん相談員 継続研修
					基礎研修 (1)	基礎研修 (2)	基礎研修 (3)※2		
1	社会福祉士/精神保健福祉士	常勤	専従(8割以上)	20	受講	受講	受講	受講	受講
2	社会福祉士	常勤	その他	10	受講	受講	未受講	受講	未受講
3	看護師	常勤	その他	5	未受講	未受講	未受講	未受講	未受講
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									

※1 「その他」については、相談支援に関する業務に従事する時間が就業時間の5割未満である者について、選択してください。

※2 相談員基礎研修(3)については、小児がん拠点病院および小児がん連携病院の指定にあたり必須の要件ではありません。

相談件数について以下留意の上でご回答ください。

「自施設の患者・家族」とは、貴院で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院で診療を受けた患者・家族のことをさしています。

「他施設の患者・家族」とは、貴院以外の医療機関で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院以外の医療機関で診療を受けていた患者・家族のことをさしています。

なお、自施設と他施設のいずれでも診療を受けている患者・家族については、「自施設の患者・家族」に含めてください。

本設問は相談支援センターでの相談件数及び小児がんに係る相談支援内容についてお伺いしております。

●年間ののべ相談件数(令和5年1月1日～12月31日)

549 件

相談件数 ※新規相談件数に限る (令和5年1月1日～12月31日)

	相談者	計
1	自施設の患者・家族	539
2	他施設の患者・家族	8
3	小児がん連携病院や地域の医療機関の医療従事者	2
	合計	549

●上記年間ののべ相談件数のうち、患者が相談時に【20歳未満】である件数(令和5年1月1日～12月

494 件

患者が相談時に【20歳未満】である相談件数 ※新規相談件数に限る (令和5年1月1日～12月31日)

	相談者	計
1	自施設の患者・家族	484
2	他施設の患者・家族	8
3	小児がん連携病院や地域の医療機関の医療従事者	2
	合計	494

小児がんに係る相談支援内容

※がん相談支援センターで最も力を注いでいる小児がんに係る相談支援の内容について下記に5つあげてください。国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄に掲載する予定です。なお、該当が無い場合は、「なし」とご回答ください。

相談支援の対象者

例	がんの診療を行っている医療機関の紹介(70施設を対象に調査を行い、その資料をもとに医療機関の情報を提供しています。)	他施設の患者・家族
1	医療費助成等の経済的支援の案内	自施設の患者・家族
2	幼稚園や学校に関連する就学・復学支援	自施設の患者・家族
3	自宅での療養に関する支援	自施設と他施設の患者・家族
4	がんの子どもを持つ親やきょうだいへの家族支援	自施設の患者・家族
5	受診・受療に関する案内や支援	自施設と他施設の患者・家族

がん相談支援センターの問い合わせ窓口

記載の有無: 入力済 / 未入力あり 入力済

病院名: 国立成育医療研究センター
 時期・期間: 令和6年9月1日現在

1	がん相談支援センターの名称	小児がん相談支援センター			
2	問い合わせ先電話番号	03-3416-0181	(内線)	2148	
3	■ 対面相談の実施 (実施/未実施)	実施			
	予約の要否 (必要/不要)	必要			
	■ 電話相談の実施 (実施/未実施)	実施			
	電話番号	03-3416-0181	(内線)	2148	
4	予約の要否 (必要/不要)	不要			
	■ FAX相談の実施 (実施/未実施)	未実施			
	FAX番号				
	■ 電子メール相談の実施 (実施/未実施)	未実施			
	メールアドレス ※個人のメールアドレスは記載しないでください				
	■ Web会議ツールを活用した遠隔相談の実施 (実施/未実施)	未実施			

小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和6年9月1日現在

自施設と連携している、小児がんに関する患者団体の数

12

語り合うための場総実施回数(期間: 令和5年1月1日～12月31日):

2

1. 患者の交流会・勉強会・相談支援・講演会等で連携している小児がん患者団体と、小児がん患者およびその家族が語り合うための場について主なものを5つまで記載してください。

連携している小児がん患者団体について			当該団体が主催する小児がん患者およびその家族が語り合うための場について								
連携している団体の名称	団体の参加対象者	具体的な連携内容	上段: 語り合う場の名称	病院 職員 の 関与	活動状況		参加対象者			参加対象者向けの 院内の問い合わせ窓口 (窓口の名称・電話番号)	
			下段: 主な活動内容		定期 /不定期	頻度 (回)	病名	院外からの 参加可否	患者のみ /家族のみ /患者・家族		
例	〇〇〇会	小児血液腫瘍の患者およびその 家族 ・月1回患者交流会を開催して いる。 ・市民講演会に演者として参加 してもらっている。	〇〇〇会 小児がん患者の親の交流 会を開催している。	なし	定期	週	1	小児がん	参加可	患者・家族	名称 電話 相談支援センター XXX-XXX-XXXX直通
1	あすなるクラブ	施設内患者、患者家族な ど 施設内情報コーナーに 同団体のリーフレットを 配置、交流会の開催の サポート	院内サロン オンラインでの交流会と対 面の交流会を開催	あり	定期	年	2	小児がん	参加可	患者・家族	名称 電話 小児がん相談支援センター 03-3416-0181
2	がんの子どもを守る会	患者、患者家族など 施設内情報コーナーに 同団体のリーフレットを 配置、ソーシャルワー カー間の相談支援にお ける連携	小児がん経験者の交流会 ハイブリッドでの交流会を 共催した(小児がん交流 フェスタ内)	あり	不定期	年	1	小児がん	参加可	患者のみ	名称 電話 小児がん相談支援センター 03-3416-0181
3	すくすく	網膜芽細胞腫の患者家族 の会 当センターでの交流会に 参加									名称 電話
4	肝芽腫の会	肝芽腫の患者家族の会 当センターでの交流会に 参加									名称 電話
5	神経芽腫の会	神経芽腫の患者家族の会 当センターでの交流会に 参加									名称 電話

2. 患者および家族向けの図書室の設置状況を記載してください。

※院内のがん相談支援センターなどの図書室について記載してください。院内図書室以外は3ページ目に記載してください。

1	患者および家族向けの図書室の設置	設置なし	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。				
2	図書室の名称						
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し					
		アドレス					
4	利用者の制限 ※「その他」を選択する場合は、その他欄に詳細を記載すること。	その他					
5	医療系の資料 有無について	図書		雑誌		医療系のビデオ・DVD	医療系の冊子
		医学専門書	一般向け医療系図書	医学専門雑誌	一般向け医療系雑誌		
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機	
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表			(内線)		
		直通1			直通2		
9	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)						

3. 院内のがん相談支援センターなどの図書室以外の場所に図書等が設置されている場合を記載してください。

1	院内図書室以外の場所に図書等の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。				
2	図書等が設置されている場の名称	情報コーナー					
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	医療連携・患者支援センターについて				
		アドレス	http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cooperation/about.html				
4	利用者の制限 ※「その他」を選択する場合は、その他欄に詳細を記載すること。	制限なし	その他				
5	医療系の資料 有無について	図書		雑誌		医療系のビデオ・DVD	医療系の冊子
		医学専門書	一般向け医療系図書	医学専門雑誌	一般向け医療系雑誌		
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機	
		設置なし		設置なし		設置なし	
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表			(内線)		
9	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	実施					

長期滞在施設またはこれに準じる施設

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和6年9月1日現在

病院からの距離、施設内の設備(調理スペース、ランドリー、プレイルーム等)、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。**1枚におさめること。**

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙12を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/エクセル/パワーポイント/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

施設名称 : ドナルド・マクドナルドハウスせたがや
運営主体 : 公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン
部屋数 : 23
運営体制 : ハウスマネージャー1人、サブマネージャー2人、アシスタント3人、ボランティア206人
病院からの距離: 病院に隣接
施設内設備: 宿泊室、キッチン、ダイニング、リビングルーム、多目的室(図書館)、ランドリー、多目的室、プレイルーム
感染対策等: <ハウス内の対策>
・検温・手洗い・マスクの着用
・1日1回、アルコールにて館内の消毒を行う。
・館内の換気
・可能な限り、ソーシャルディスタンスを取っていただく
<滞在要望の制限や面会等の制約等の有無>
宿泊者以外は入館禁止
<稼働率>80%程度で推移している。

施設名称 : ひつじさんのおうち
運営主体 : 認定NPO法人 ファミリーハウス
部屋数 : 6
運営体制 : 看護師(相談員)、ソーシャルワーカー、ハウスマネージャ、ボランティア
病院からの距離: 徒歩3分
施設内設備: キッチン、リビング、バス、トイレ、ベッド
感染対策等: コロナ対応を含む安全衛生マニュアルを専門看護師監修の元作成し、それに従った感染対策を行った。ボランティアにもマニュアルの内容を研修にて伝えた。
利用者にはチェックイン時に看護師から感染対策について説明し、その約束を守っていただいた。
<滞在要望の制限や面会等の制約等の有無>きょうだいの利用については、主治医の許可がある場合のみ。
<稼働率>100%

臨床研究の問い合わせ窓口

記載の有無: 入力済 / 未入力あり 入力済

病院名: 国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和6年9月1日現在

【臨床研究(治験を除く)】の問い合わせ窓口							
■臨床試験(治験を除く)に参加していない、地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について					担当している診療科が窓口となっている		
1	窓口の名称		なし				
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		見出し	-			
			アドレス	-			
	電話		代表	(内線)	-	-	-
			直通	-			
■臨床試験(治験を除く)に参加していない、地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					担当している診療科が窓口となっている		
2	窓口の名称		なし				
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		見出し	-			
			アドレス	-			
	電話		代表	(内線)	-	-	-
			直通	-			

【臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究】の問い合わせ窓口						
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない、地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について					担当している診療科が窓口となっている	
1	窓口の名称		なし			
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	-			
		アドレス	-			
	電話	代表	-	(内線)	-	-
直通		-				
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない、地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					担当している診療科が窓口となっている	
2	窓口の名称		なし			
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	-			
		アドレス	-			
	電話	代表	-	(内線)	-	-
直通		-				

【治験】の問い合わせ窓口						
■治験に参加していない、地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について					治験専用の窓口がある	
1	窓口の名称		臨床研究センター 研究推進部門 臨床研究コーディネートユニット			
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究センター 研究推進部門 臨床研究コーディネートユニット			
		アドレス	https://www.ncchd.go.jp/scholar/clinical/chiken/patient/recruit.html			
	電話	代表	03-5494-7120	(内線)	5371	-
直通		-				
■治験に参加していない、地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					治験専用の窓口がある	
2	窓口の名称		臨床研究センター 研究推進部門 臨床研究コーディネートユニット			
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究センター 研究推進部門 臨床研究コーディネートユニット			
		アドレス	https://www.ncchd.go.jp/scholar/clinical/chiken/patient/recruit.html			
	電話	代表	03-5494-7120	(内線)	5371	-
直通		-				

医療の質の継続的な評価改善の取組について

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和6年9月1日現在

■ 自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、地域に対して行っている情報提供を記載してください。

- ① 院内の見やすい場所に掲示している いいえ (はい/いいえ)
- ② 院内誌、チラシ等で広報している いいえ (はい/いいえ)
- ③ ホームページに掲載している はい (はい/いいえ)
- ④ ホームページに掲載している場合、該当するページのアドレスを記載してください

<https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/information/survey.html>

- ⑤ 地域の広報誌等で広報している いいえ (はい/いいえ)
- ⑥ その他の方法で掲載している はい (はい/いいえ)
- ⑦ その他の方法がある場合、内容を記載してください

QI報告書・ご意見等の院内掲示

■ 自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

課題の内容		目標	目標達成の検証方法(データ源)
例)	患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	3カ月おきに日を設定して患者アンケートを行う。
1	復学カンファレンス実施率	100%の実施率を目指す	分子: 分母のうち、原籍校との復学カンファレンスを実施した小児がん患者(初発診断時年齢20歳未満)実数 分母: 2023年1月～12月に原籍校に復学した小児がん患者(初発診断時年齢20歳未満)実数 年に1回、QIとして測定する。
2	緩和ケアチーム介入率	30%の実施率を目指す	初発診断時年齢20歳未満かつ、院内がん登録症例のうち、緩和ケアチームのカンファレンスで緩和ケアの必要性を検討した患者実数(カンファレンスで実際に検討した患者実数)の率を、年に1回QIとして測定する。
3	中心静脈カテーテル関連血流感染率	1.76%(拠点病院中央値)未満を目指す	ICTと協力して、年に1回QIとして測定する。 分子: 小児がん患者における中心ライン関連血流感染者数(入院患者に限定) 分母: 小児がん患者における中心ライン留置のべ日数(人日)
4	患者満足度の向上		独立行政法人国立病院機構と共同で調査結果を分析し、全国及び関東甲信越地域の国立病院機構病院との比較や前年度以前の自施設の結果との比較を行うなど、適切な評価の実施に努める。
5	ご意見箱		毎週1回のペースで患者からの要望やご意見に対するミーティングを行い、スピーディー且つ実効性のある改善に努めている。

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1	年1回測定を実施したQIを指標に、実施率のさらなる向上に取り組む。
2	年1回測定を実施したQIを指標に、実施率のさらなる向上に取り組む。
3	年1回測定を実施したQIを指標に、実施率のさらなる向上に取り組む。
4	得られた調査結果をスタッフ間で共有し、さらなる改善に取り組む。
5	患者からの要望やご意見毎に、週1回の医師間のミーティングおよび月1回の医師・看護師・薬剤師のミーティングで共有、改善策を話し合い、実行に移す。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙14を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/エクセル/パワーポイント/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

<ご意見箱> 院内にご意見箱を設置し、いただいた意見をもとにミーティングを行い実効性のある改善に努めている

医療安全体制

記載の有無：入力済／未入力あり

入力済

病院名： 国立成育医療研究センター

時期・期間： 令和6年9月1日現在

●医療に係る安全管理を行う部門の名称、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

注1) 研修医は除いてください。

注2) 常勤とは、当該医療機関が定める1週間の就業時間のすべてを勤務している者をいいます。ただし、当該医療機関が定める就業時間が32時間に満たない場合は常勤とみなしません。(「医療法第21条の規定に基づく人員の算出に当たっての取扱い等について」(平成10年6月26日付け健政発第777号・医薬発第574号、厚生省健康政策局長・医薬安全局長連名通知)の別添「常勤医師等の取扱いについて」を参照)

注3) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいいます。
「その他」については、「5割未満」の場合に選択してください。

注4) 「医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針」(平成19年3月30日付け医政発0330019号厚生労働省医政局長通知及び薬食発第0330009号厚生労働省医薬食品局長通知)に基づく研修を想定しています。

医療に係る安全管理を行う部門の名称		医療安全管理室					
医療に係る安全管理を行う部門のメンバー							
	職種(注1)	常勤/非常勤(注2)	専従/専任/その他(注3)	医療安全に関する研修の受講状況(注4)			
				受講した研修名	研修主催者名	修了日	
1	部門長	医師	常勤	兼任(5割未満)	受講未	受講未	受講未
2		医師	常勤	専従(8割以上)	医療安全対策研修	NHO関東信越グループ	受講中
3		薬剤師	常勤	専従(8割以上)	医療安全対策研修	NHO関東信越グループ	2021年8月
4		看護師	常勤	専従(8割以上)	医療安全対策研修	NHO関東信越グループ	2019年1月
5		看護師	常勤	専任(5割以上8割未満)	医療安全管理者養成研修	日本看護協会	2023年10月
6							年 月
7							年 月
8							年 月
9							年 月
10							年 月

11						年月
12						年月
13						年月
14						年月
15						年月
16						年月
17						年月
18						年月
19						年月
20						年月

●医療安全のための患者窓口

窓口の名称		医療安全管理室				
電話	直通					
	代表	03-3416-0181	(内線)			

様式3(病院機能)の該当指定要件のAのうち満たしていない項目について

記載の有無: 未充足あり/不要

不要

病院名: 国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和6年9月1日時点

※様式3(病院機能)の該当指定要件のAのうち満たしていない項目について、満たしていない項目とその理由と今後の見通し等について具体的に記載してください。

※通し番号については、様式3(病院機能)シートのL列の番号を記入してください。

※令和6年9月2日以降に、要件の充足状況に変動があった場合には、別途、文書で厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課へ届け出てください。

※右上について、最初は「不要」と表示されます。様式3(病院機能)を入力後に、上部にある「様式3(病院機能)シート」の入力後、クリックしてください。ボタンを押下ください。未充足要件が抽出されます。

	通し番号 ※自動反映	令和6年9月1日時点で満たしていない要件 ※自動反映	現状の説明	充足見込み時期
例	68	小児がんの放射線療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	〇月〇日付けで該当医師が退職し、9月1日時点で配置できていない状況である。	令和〇年〇月〇日に、該当医師を新規採用予定である。
例	111	放射線療法に関する機器を設置すること。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。	9月1日時点で、リニアックを導入していない。	令和〇年〇月〇日に、リニアックを導入し、放射線療法を開始予定である。
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				